

4. 記念式典スピーチ

基調講演

なかつか いっこう
金融担当大臣 **中塚 一宏**



1 はじめに

日本の金融担当大臣の中塚一宏でございます。

本日は、IFRS 財団アジア・オセアニアオフィスが設置され、開所式が行われますことを、心から歓迎いたしますとともに、基調講演の機会をいただいたことに感謝申し上げます。

また、ハンス・フーガーホースト国際会計基準審議会（IASB）議長やミッシェル・ブラダ評議員会議長をはじめ、ロンドン、アジア・オセアニアなど、世界中から来られた関係者の皆様に対しても、はるばる日本を訪問していただいたことに心から感謝申し上げます。

2 経済のグローバル化と会計基準の進化

IFRS をどのように活用していくかは、日本にとっても最重要課題の1つであると考えています。私が先月、金融担当大臣に着任した際には、野田総理大臣より、金融機能の安定確保、東日本大震災の被災者への支援円滑化などと並び、最も優先すべき事項として、日本におけるIFRS 適用についての検討を指示されました。この指示を踏まえ、担当大臣として、この課題にしっかり取り組もうと考えており、本日、世界中の関係者の皆様と意見交換ができる貴重な

機会を得たことについて、大変うれしく思っております。

経済のグローバル化により、ヒト、モノ、カネが世界的に動くようになっていますが、その中で、企業の財務状況を正確に把握するための会計基準の役割に注目が集まっています。

G20 首脳会議では、2008 年以降、累次にわたり、「単一で高品質」な会計基準の必要性について触れられてきました。「単一で高品質、理解が容易、執行可能性が保たれ、グローバルに通用している会計基準の開発」という IFRS 財団の使命の重要さは申し上げるまでもありません。また、こうした高品質な会計基準の開発に、アジア・オセアニア各国及び地域の基準設定主体も積極的に貢献していく責務を有していると考えております。

3 IFRS 財団アジア・オセアニアオフィスの重要性

私は、若い頃、京都にあるお寺で修行をしていたことがありました。その際にお世話になった僧の方は、人は皆、繁栄できると固い信念を持たれた方でした。私が政治の世界に飛び込む決心をしたきっかけを与えてくださった師であります。

その師の教えに、「暖かいところに人が集い、人の集うところに笑顔が生まれる」「単に年齢を重ねるだけではなく、手を挙げたときに何人



が集まるかがその人の値打ちだ」というものがありました。今もこの言葉を大切にしております。

私は、「暖かく」あるためには、なによりもまず、相手の意見をよく聞いて、相手を深く理解することが大変重要である、と考えております。

金融庁は2001年に現在の姿になった新しい官庁ですが、IASBも、金融庁と同じく2001年に設立された若い組織です。また、IFRS自体も若い基準であります。

しかし、最近までは一部の地域だけで使われていた基準だったIFRSは、現在、アジア・オセアニア地域も含め、世界中で広く使用されている、グローバルな会計基準へと進化しています。

若い基準でありながら、IFRSの使用が拡大していることは、IFRSがグローバルに用いられる高品質な会計基準であるとの信認を得るために、関係者との協議が重ねられ、相互理解が深められてきたことを示していると考えます。

今後とも、IFRSが、一部の国の意見だけでなく、世界の大小様々な国の意見をよく聞き、深く理解した上で開発された「暖かい」基準であるために、関係者の一層の取組みが期待され

ます。

さて、世界全体の経済状況を見てみますと、アジア・オセアニア地域の重要性が非常に高まっております。例えば、リーマンショック以降の世界の成長率は3%程度にとどまっていますが、アジア・オセアニア地域の寄与は、その半分以上に達しております。また、アジア・オセアニア地域の国内株式市場の時価総額は、過去10年間に4倍以上も拡大しています。

IFRS財団の初めての地域オフィスの設置先として、アジア・オセアニア地域が選ばれたことは、このようなアジア・オセアニア地域の重要性の拡大を踏まえてのことであると思われ、アジア・オセアニアオフィスに対しては、多くの関係者の皆様からの強い期待があると思われ。

従来、IFRSの開発について、日本を含め、アジア・オセアニア地域の様々な国が意見発信し、人的・資金面でも相当程度の貢献を行っていますが、今後さらに、アジア・オセアニア地域の貢献を向上させることが大切だと考えます。

アジア・オセアニア地域の国々が協力し、連携を深め、IFRSの開発に対して積極的に関わっていくことは、IFRSの開発の促進に大変有益なだけでなく、IFRSが、世界各国の多様性を踏まえた、真に国際的な会計基準となることにつながるものであり、非常に重要であると考えております。

こうした取組みについて、アジア・オセアニアオフィスは主体的な活動機関となります。高い専門性を備えた地域各国の基準設定主体などの連携のハブとして、また、深い協力を実現するためのプラットフォームとして、このオフィスが存分に機能し、活用されることと確信しております。

もちろん、日本としても、IFRSとアジア・オセアニア地域の発展のため、アジア・オセア

ニアオフィスの活動に対して最大限協力していきたいと思っています。こうした取組みを通じ、IASBが一層、関係者に対する広く深い理解に根ざした「暖かい」基準設定主体となることを期待します。

4 おわりに

IFRS 財団のアジア・オセアニアオフィスが、アジア・オセアニア地域をはじめ世界の様々な

地域から人の集うような、暖かい、笑顔が生まれる場所となることで、国際的な会計基準策定における意見発信力を高めるとともに、アジア・オセアニア地域全体のプレゼンス向上につながる拠点となることを心より期待しています。

遠方よりお越しいただいた皆様に心からお礼を申し上げますとともに、今後のオフィスの発展を祈念いたしまして、私の基調講演とさせていただきます。